

此書を草したるものなりとす。

以上是一片數十字の文書につきて試みに論述せる推察にして、其根據の淺弱なるは自から遺憾とする處なり。然も此頃の事蹟にして吾人の知り得べきものは、後世の編纂に係る晋書等の示す範圍を出づ可らざる時に當り、悠々千六百年を遡れる時代の文書を手にするの喜は、終に敢て此稿を草せしむるに至れり。若夫れ此文書によりて曉り得べき書學の議論に至りては、内藤博士既に屢説あり。今茲に之を新にするの要なかるべし。

附記、此地方の道路の詳細については別に機會を得て記する所に譲り、こゝには只だ此文書と相關するものの大略に止めたり。

(東洋學報 第一卷第二號、明治四十四年五月)